

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	看護師課程選択必修
担当教員			
◎野口裕子、江部克也、堀江正男			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 15時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】 ◎野口 裕子 江部 克也 堀江 正男 実務経験のある教員が担当します。</p> <p>【研究室】 209 新潟医療福祉大学 315</p> <p>【メールアドレス】</p> <p>【本学の科目区分】 専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 ◎ ○ ○ ○ ○</p>
------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害分類、防災・減災対策に関する法的根拠や基本知識を理解する。 2. 近年の国内の広域自然災害、新潟県の防災対策を理解する。 3. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに合わせた看護実践を身につける。
授業概要	過去の大規模災害における活動の経験値を基盤に、災害が地域の人々の健康と生活に与える影響を理解し、災害発生時に看護職として適切に行動できるよう災害サイクルに合わせた知識と技術を学ぶ。

授業計画	<p>1-2 授業内容 授業形態：講義、グループワーク 対面授業、遠隔授業 学習課題：オリエンテーション 学習課題の表示 災害に関する基礎知識 近年の日本の広域災害 災害対策の考え方 都道府県レベルの危機管理 学習内容： ・災害の定義・分類、地震に関する基礎知識 ・広域自然災害と人為災害、救助活動の実際（自衛隊・警察・消防の活動） ・防災・減災対策の考え方と法的根拠 ・国や新潟県の防災計画と危機管理体制 ・原子力防災活動の実際 備考：ゲスト、堀江、野口</p> <p>3-4 授業内容 授業形態：講義 対面授業 学習課題：災害医療の基礎知識 災害の種類による健康障害 災害サイクルから考える災害医療と看護 被災者支援とところのケア 学習内容： ・災害医療と救急医療の違い ・災害拠点病院と医療救護チーム ・災害医療活動の7つの要素 ・被災病院の初動体制、広域医療搬送の実際 ・原子力災害医療（概論、被爆防護） ・災害時の健康ニーズ、主な外傷、災害関連死 ・災害発生時における被災病院の患者対応 ・避難所・救護所の立ち上げと傷病者への対応 備考：江部 学習内容： ・災害とところのケア（被災者・遺族・支援者） ・他職種連携 ・災害サイクル各期の活動現場の特性と看護活動 ・要配慮者（妊娠褥婦、乳幼児、障がい者、高齢者等）への看護支援 ・感染症が発生しやすい災害時の環境と対応 ・静穏時の防災対策・教育 備考：ゲスト</p> <p>5 授業内容 授業形態：演習 対面授業</p>
------	---

	<p>学習課題：急性期の看護活動 学習内容：・災害時トリアージの実際 備考：ゲスト、堀江、野口</p> <p>6-7 授業内容 授業形態：演習 対面授業 学習課題：急性期・亜急性期の看護活動 学習内容：・被災病棟における看護活動 ・避難所における看護活動 備考：堀江、野口</p> <p>8 授業内容 授業形態：発表 対面授業、遠隔授業 学習課題：課題の発表 学習のまとめ 学習内容：まとめ 備考：堀江、野口</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：新潟県で発生した災害について調べる。 ・事後学習：急性期・亜急性期における看護活動を整理し、災害時には避難所における看護活動が実践できるように理解を深める。
評価方法、評価基準	<p>課題レポート50% グループワークや演習への参加度25% 課題発表・討論25%</p> <p>なお、単位認定には2/3以上の出席が必要であり、20分以上の遅刻と途中退室は欠席とみなす。</p>
必携図書	なし。資料は随時配布する。
参考図書・資料等	<p>災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる 改訂第4版 (南江堂、2023)</p> <p>災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂3版 (南山堂、2019)</p>
受講、課題、資料配布等のルール	資料は授業開始時に配布する。配布資料は毎回持参すること。
教員からのメッセージ	外部講師を招き、実際の活動を教授していただきます。最先端の活動を理解し、看護職の役割を考察しましょう。
オフィスアワー	